



「スローフード・マニフェスト」を出版

かなまる ひろみ
金丸 弘美さん

リアで取材。スローフード協会本部の活動を詳細に報告した「スローフード・マニフェスト」(木楽舎)を出版した。

スローフードは、大量生産の画一的な味によって忘れ去られつつある伝統的な食文化を守り伝えるようとする哲学や手法の

「スローフード運動の実態が、日本には全く伝わっていない」

食や環境問題のジャーナリスト。約10年前から農村や野菜売り場を取材し続ける。ニッポン東京スローフード協会設立発起人の一人でもある。

「実は僕自身もよく分からなかった」という運動の実像を知ろうと、一昨年から発祥の地・イタ

肝心なのは 仕組みを作ること

総称。単純に昔の食材を復元したり、有機野菜を栽培することではない。

「肝心なのは、小規模の生産者にきちんとお金

が回っていく仕組みを作

り出すこと。彼らにはその手法があった」

驚いたのは110人も

のスタッフが雇う大きな

組織だったこと。会費や

出版活動の収益のほか、



佐賀県出身。子供の誕生をきっかけに食の安全を考え始めた。3年前、徳之島に移住。51歳。

絶滅の危機にある食材を守る「味の方舟」プロジェクトなどで、行政や企業から協賛を受けているケースが多い。「精業から協賛を受けているケースが多い。」「精神やシステムを学ばない」と、いつまでも取り組みが自立していかない」

今秋、協会本部の認可を受け、初のイベントを開く予定だ。

文と写真・佐々本浩材